

IPH工法で建設時の姿を復元

西条市 大宮橋に「全建賞」

全日本建設技術協会

(大石久和会長)が優

れた公共事業を表彰す

る「全建賞」(2020年

度、道路部門)に、愛媛

県西条市にある土木学会

選奨土木遺産・大宮橋の

修復工事が選ばれたと、

同市が6月15日発表し

た。

同橋は27年昭和2年

に竣工した鉄筋コンクリ

ート開腹上路アーチ橋

(橋長42・9m、幅員4

m)。

土木学会は同橋につい

て、「芸術的で美しい」巨

石がごろごろしている溪

谷を一跨(また)ぎにす

る力強いアーチ「列柱

上部も小アーチになって

おり、細かいところまで

非常に丁寧にデザインさ

れている」などと解説し

ている。



細部まで美しい大宮橋 (西条市提供)

老朽化に伴って同市は

補修工事を実施、昨年9

月に完成させていた。同

市は受賞について、「歴

史的・文化的な価値を損

なわせない工法が求めら

れる中、新技術(IPH

工法)の採用により建設

当時の姿を復元したこ

となどが評価されたとし

ている。

IPHは「Inside Pressure

Hardening」の

略で、日本語では「内圧

充てん接合補強」。傷ん

だコンクリート構造物の

強度回復と長寿命化を図

るため、コンクリート内

部に存在する空気と注入

樹脂を入れ替え、開けた

穴の内部から放射線状に

拡散することで、末端の

微細クラックまで充てん

できるという。(この段

落、IPH協会のHPに

よる)